



創立 20 周年記念芸術展示

## 「制作と思考」第 6 回展 テーマ＜距離＞

会期：2006（平成 18）年 7 月 28 日（金）－8 月 2 日（水）

会場：アステールプラザ・市民ギャラリー（広島市中区加古町）

創立 20 周年を記念する第 6 回展には 39 名 39 点の出品があった。今回展は、これまで使用してきた県民ギャラリー（広島県立美術館内）から会場を移し、平和記念公園の南に位置するアステールプラザ市民ギャラリー（総面積 550 m<sup>2</sup>）で開いた。

今回展のテーマ「距離」については、あらかじめさまざまな「距離」の解釈が予想できた。そのとおり、出品作はバラエティーに富んだものとなった。会場ディスプレイの面から見ると、出品点数もほどよく、作品もおおむね会場にマッチして鑑賞しやすいものとなった。

今回展のテーマ「距離」についてごく簡明に説明しておこう。

ひと口に「距離」といっても時間的な距離、空間的な距離、精神的な距離など、さまざまな「距離」が想定され、その解釈は「ゆらぎ」の中にあっても様ではない。その「ゆらぎ解釈」を出品者一人一人にゆだねて作品を募ったのが今回展だった。

以下、紙幅の関係から記憶に残る作品を 10 点に絞って列挙、一口コメントを添えて報告とする。（50 音順）



### ■ 石下早苗 “月影”（染色）

数行の染色布を天井から吊り下げ、黒と濃い青を基調に明快な色彩で奥行き深く表現する。無限に拡大する宇宙空間を神秘で満たしている。

### ■ 大成大輔 “尖鋭”（油彩）

得体の知れない穴開きの物体が画面を横切ってうごめく。大迫力の大作が今回も会場を圧倒した。

### ■ 木原和敏 “想”（油彩）

高度な細密描写術を駆使しつつ、物思いに耽（ひ）ける若い女性の心を写す。高い精神性が描き出されている。

### ■ 椎木剛 “未在一守・離・破”（墨象）

墨の濃淡、微妙な滲みのパターンなど、繊細さと安定感が同居。充実した平面になっている。

### ■ 社河内綾子 “私の距離”（油彩）

人気（ひとけ）の见えない室内を、精一杯華やい

だ画面に描き出す。作者の心中の「距離」感か。

### ■ 白井史郎 “distance of life”（油彩）

醜悪な体内に刻まれる皺（ひだ）や球体には、心の叫びが記憶され、うっ積している。

### ■ 鳥谷部圭子 “between”（立体）

尺取り虫のように遅々として進まぬ距離に、もどかしさがつのる。しかし距離は着実に刻まれている。

### ■ 根木達展 “浮遊するモノ”（油彩）

何ともシュールで静かな情景だ。過去との距離か、はたまた未来との距離か。見る者をして不安な心理に駆り立てる。

### ■ 船田奇岑 “水紋”（ミクストメディア）

屏風の上に描かれた墨はすでに変わりようのない存在だ。一方、屏風に投影されるゆらめく水紋は千変万化、はかなく消えていく。「静と動」あるいは「不動と動」の対比に、作者は「無常」を意識しているのだろうか。

### ■ 三浦実一 “間”（立体）

二人の距離が扁平な造形で単純明快かつユーモラスなコミュニケーションとして表現されている。わずかに非対称なフォルムが調和をもって睡み合っている。



ところで、前回第 5 回展「眼と素材」に出品された杉谷富代さん（染色作家）のオブジェ“あの日”が、このほど広島大学に寄贈され、永久の居場所を得ることになった。すでに新聞でも報道されたところであるが、ここに特記しともに喜びたい。（中国新聞 2007 年 5 月 15 日付け 呉・東広島版）

最後になったが、この展覧会の開催にあたり、財団法人エネルギー文化・スポーツ財団（広島市・中国電力本社内）からは、運営費として多額のご援助をいただいた。深甚の謝意を表する次第である。

（本展実行委員長・倉橋清方）

「想」 700 × 1400  
足利 敏子



「何キ口地点？」 2000 × 2000 × 100  
有田 悦子



「月影」 2000 × 2400  
石下 早苗



「尖銳」 2000 × 2000  
大成 大輔





「DNA ~ DNA」 1000 × 500 × 1000  
岡田 真理子



「distant people • close people」 2400 × 1600  
萩野 憲子





「perception time[inua]」 650 × 650 × 800

粕谷 周司



「劣化一Ⅲ」 1620 × 1620

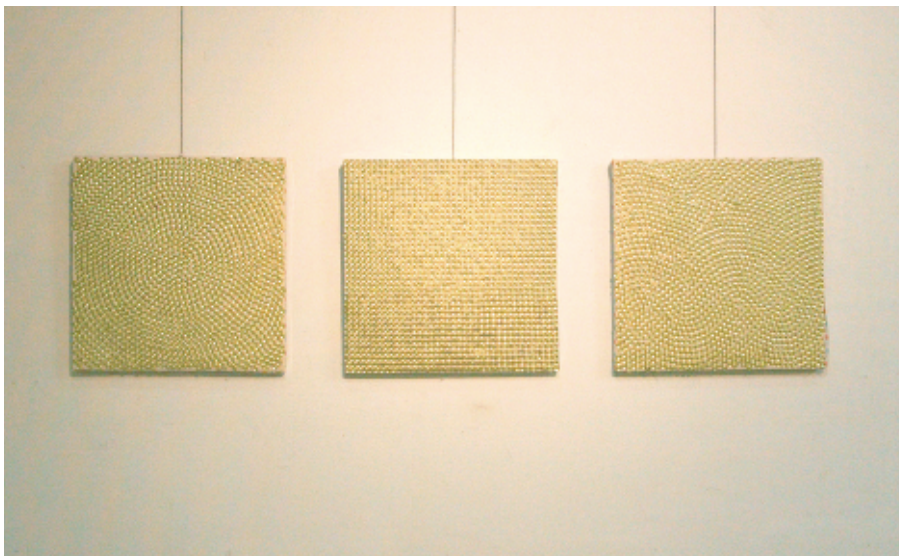
嘉屋重 順子



「想」 1800 × 1400  
木原 和敏



「warks 2006-7」 410 × 410  
久保田 貴美子



「GREEN MAUVESHAE」 2270 × 1810

越川 道江



「Mr . X」 2500 × 2000

才田 博之





「The world of myself and myself was small」 900 × 900

佐々木 敦子



「1 cm は 100 年」 1600 × 450

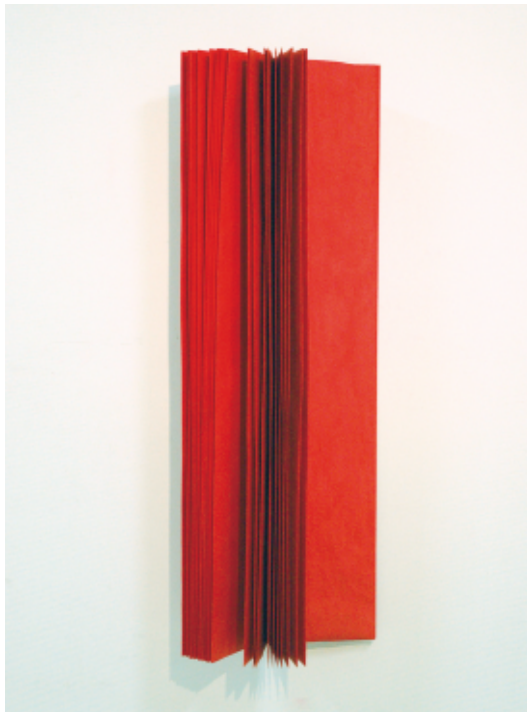
佐野 恵子



「未在一守・離・破」 1800 × 1350  
椎木 剛



「おもいでばなし」 350 × 2500  
柴田 史



「画廊のトンネル」 900 × 1400

下土井 洋啓



「私の距離」 1300 × 1600

社河内 綾子





「distance of life (この叫び何処まで届くの)」 1620 × 1300

白井 史朗



「赤いサンダル」 1160 × 2070

新林 道子



「gap」 1830 × 1760  
千田 禅



「空の話」 1600 × 1300  
田川 久美子





「IDATEN 男（ダンス） 女（刹那）」 1000 × 1300

多田 益也



「be + ween」 2000 × 1000 × 1000

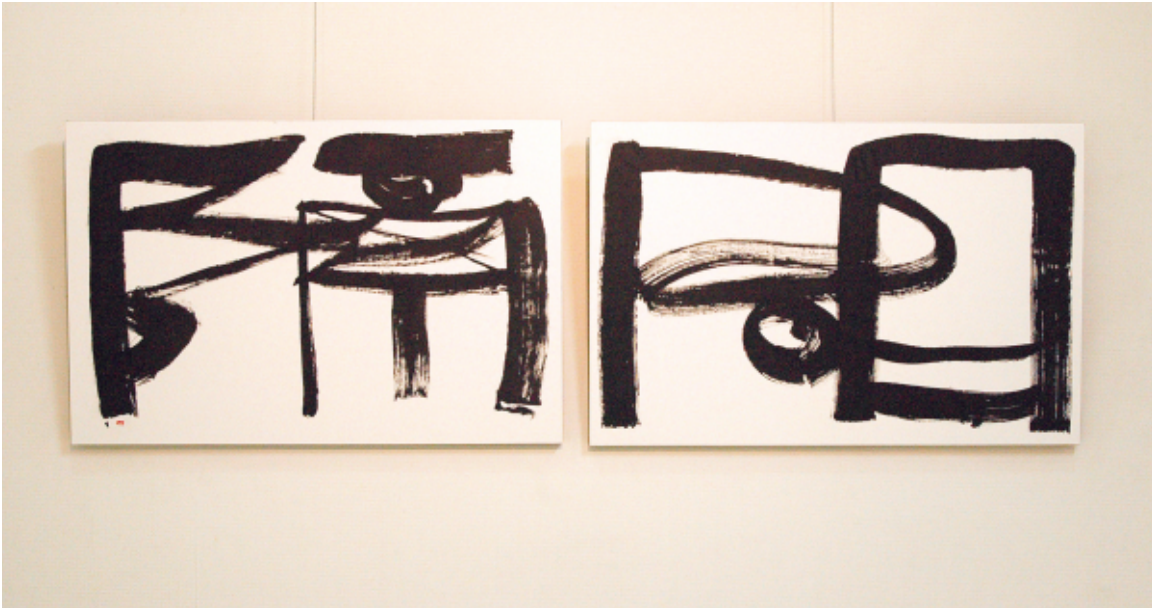
鳥谷部 圭子





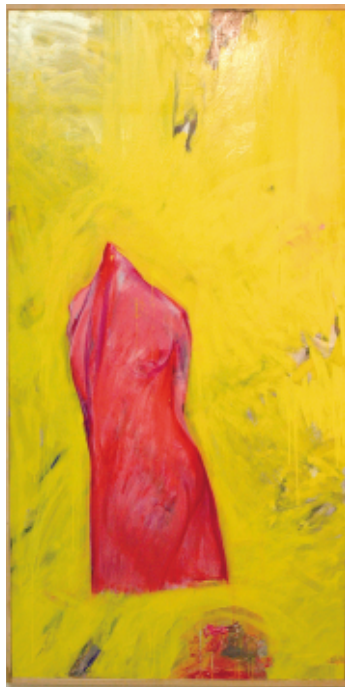
「へだたり」 680 × 1000

夏目 暢子



「2006年の風景」 1820 × 910

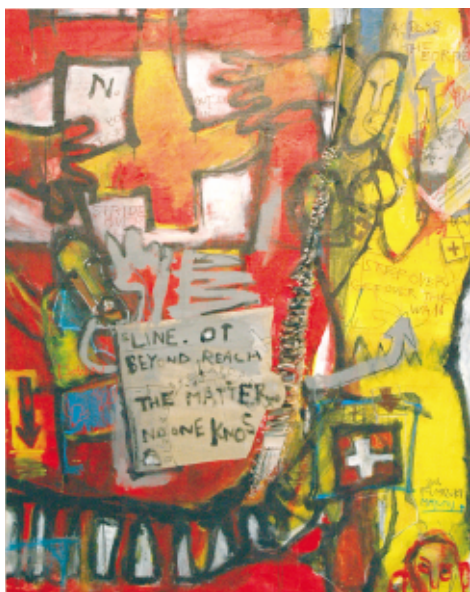
西尾 裕



「浮遊するモノ」 1850 × 1850  
根木 達展



「SAKAI-ME」 1620 × 1300  
林田 真弓



「森の音」 1400 × 1720  
檜垣 敏子



「Hizumi」 300 × 1300 × 1000  
藤村 正和





「いつか、やってくるもの。」 1300 × 1600

藤本 真理子



「水紋」 3000 × 600 × 1800

船田 奇岑



「Time scape#2 2006/05/18 13:34:07-13:48:29 倉橋島宮口、日本」 220 × 2100  
的場 智美



「間」 200 × 700 × 900  
三浦 実一



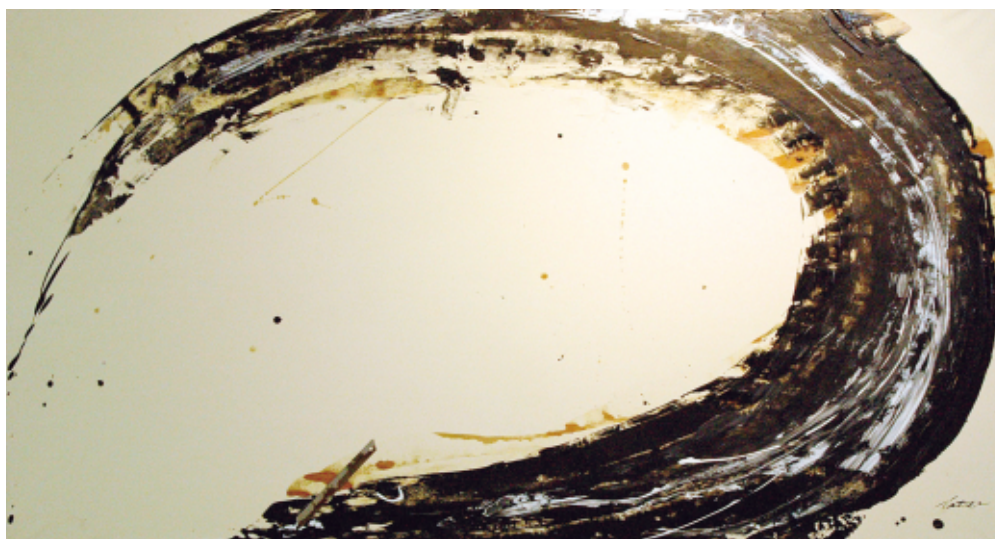
「8月6日に来る度にあの阿鼻叫喚の中で死んだ妹たちを思う。」 2060 × 730

山下 新治



「流れ」 900 × 1650

横川 達也





「citta」 1600 × 1880  
吉井 章



「マイ・リバータウン (春色の形)」 1600 × 1300  
吉井 早智子



「60年」 1200 × 950  
力善 正和

